

丹藤さん、危ない!!!

庫内はヘルメットをかぶりましょう!

6月5日、3:15頃、丹藤助役がヘルメットをかぶらず、仕業庫の3番線に停車中の電車の運転台に行くという不安全行動が発生しました。

今まで、丹藤助役をはじめ管理者は社員に対してヘルメットをかぶっていないことを注意し、ボーナスカットの事由にしてきました。頭を打つことのない車内の作業や仕業庫内にあるトイレに行く時にも「ヘルメットをかぶりなさい」「保護メガネを掛けなさい」と注意してきました。ヘルメットや保護メガネを付ける必要性を尋ねても「仕業班長室を出て仕業庫内に入る時は保護具を付けることになっている」と答えるだけでした。社員は電車の床下など危険性がある時は、言われなくとも保護具はつけています。このことから保護具の着用は安全上の問題だけではなく社員管理の道具となっています。

また、以前、丹藤助役は朝4時からの休憩明けの時、庁舎の玄関から出る直前にヘルメットをかぶった社員に対し、その時に注意するのではなく仕業詰所に戻ってから「寝ぼけていたんですか」と言ったそうです。管理者が社員にヘルメットのことを指摘する言葉としてあまりにも失礼な言葉だと思えます。注意を促す言葉ではありません。

丹藤助役をはじめ管理者は、保護具の着用をはじめ、作業時の指差喚呼について指の差し方や喚呼の声の大きさ、言葉一字一句の間違えなどを点検と称して張り付き注意してきます。中には柱に隠れて見張っている管理者もいます。管理者は些細なミスを見つけ、報告することが第一の仕事なのではないでしょうか。

丹藤助役、自分の不祥事はちゃんと報告していますか??

人に注意する前に自分のこともしっかりしましょう!!!